

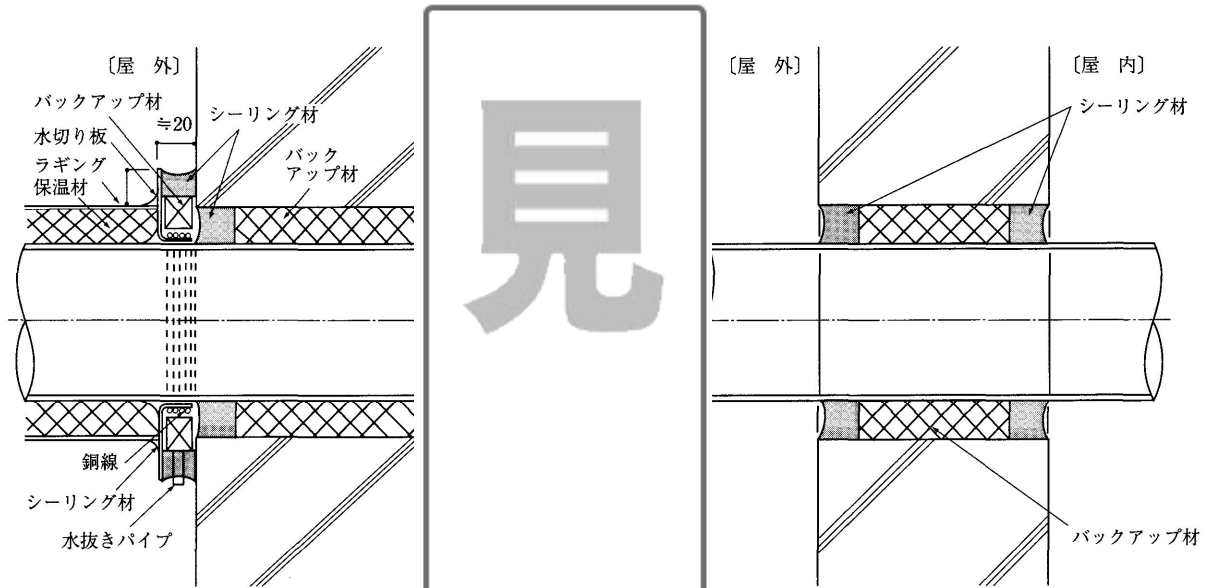
H-22	配管の外壁貫通	単位 mm
------	---------	-------

**施工方法**

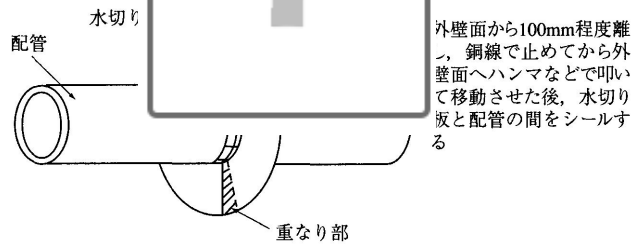
コンクリート壁の貫通

(a) 配管を保温する場合（水切り板を使用する例）

(b) 配管を保温しない場合



(c) 水切り板の取付け方法（例）



外壁面から100mm程度離し、銅線で止めてから外壁面へハンマなどで叩いて移動させた後、水切り板と配管の間をシールする

## 留意事項

- ① 外壁まわりのシーリング材の施工は、建築の専門業者に依頼する。
- ② 外壁のシーリング材に直接保温材が接触しないように水切り板などを使用する。水切り板はラギング材と同等以上の金属板またはその他の材料を使用する。
- ③ 屋外側の保温材は、吸水性のない材質が望ましい。屋内の保温材は、壁面との間に隙間ができないように、保温材を壁面へ寄せて取り付ける。万一、防露する配管で隙間が生じる場合、シーリング材でシールする。
- ④ 配管は貫通部の前後の近傍にて固定する。
- ⑤ 2本以上の配管を貫通する場合、スリーブの外面間隔は150mm以上とする。
- ⑥ ラギングの折返し部は下部にする。および配管支持部はシーリング材でシールする。
- ⑦ 配管貫通部の配管と壁の間には、ロックウールを150kg/m<sup>3</sup>以上に詰める。ただし、防火区画貫通部の場合、ロックウールと壁の間を欠込みシールする。
- ⑧ 鋼管スリーブを使用する場合は、

見

本